

## 関西地区研究例会報告

去る2011年6月20日(日)に大阪府和泉市の桃山学院大学で2011年度日本言語政策学会関西地区大会が開催された。会場には、創立50周年を記念して建てられたヨハネ館のヨハネホールが使われた。参加者30名、遠く九州や関東から駆けつけた来会者もいた。プログラムは、次のように研究発表・講演・シンポジウムからなるものであり、その準備と実行において西山教行理事に負うところが大きい。大会運営には主に会場校の橋内と友沢が担当した。

シンポジウムのパネリストには、多様な言語と地域の専門家をお願いした。オストハイダ氏は日本社会への洞察に長けたドイツ人社会言語学者、塚原氏はスペインの言語政策や来日南米移民の社会言語学的研究を専門とする。小森氏はバルト三国(特にエストニア)に詳しい歴史家である。そして、松田氏はオーストラリアでの教育経験の豊かな日本語教育専門家である。いずれもカジョ教授の講演を受けて、それぞれのパネリストが自己の立場から発言した。言語と文化の多様性を認識しつつ、いかに言語と言語教育に係わるべきかについて考えさせられた時間であった。(橋内 武)

日 時：6月26日(日)

場 所：桃山学院大学聖ヨハネホール

### 大会プログラム

10:30 開会  
副会長挨拶 杉谷真佐子(関西大学)  
総合司会：橋内 武(桃山学院大学)

10:40～12:00 研究発表 司会：友沢昭江(桃山学院大学)

1. 「対外文化政策としての日本語教育とユニラテラリズム」

平畑奈美(滋賀大学国際センター)

2. 「CEFRの中国と台湾における教育文化への適用についての考察」

程 遠巍(京都大学大学院)

12:00 ~ 13:00 昼食 (休憩)

13:00 講演 (フランス語、通訳あり)

ロラン・ガジョ (ジュネーブ大学、日本学術振興会外国人短期招聘研究者)

「多言語主義、その社会的課題と教育的リソース」

司会・通訳: 西山教行 (京都大学)

14:00 シンポジウム

「多言語主義、多言語教育を問う: スイスからの問いかけ、日本からの発信」

パネリスト: テーヤ・オストハイダ (関西学院大学)

塚原信行 (京都大学)

小森宏美 (早稲田大学)

松田陽子 (兵庫県立大学)

17:40 ~ 16:30 閉会

18:00 懇親会 割烹「萌えぎ」(会費 5,000 円)、参加者 15 名。旬の味が好評であった。